

MV 2 2 オスプレイの危険な飛行中止を求める意見書

米海兵隊普天間基地に配備されているMV 2 2 オスプレイが、7月15日、米軍厚木基地に初めて飛来した。続く7月18日及び8月18日にも飛来し、いずれも町田市の市街地上空を飛行し、少なくない市民が目撃している。中でも8月18日には、オスプレイ4機が飛来し、8月19日付東京新聞には、午後4時頃、1機のオスプレイが町田第三中学校と周辺に密集した住宅地の上空を“転換モード”とみられる状態で低空飛行している写真が掲載された。この日町田市役所に寄せられた市民の声は、オスプレイの安全性を心配する声が多数であった。8月18日の飛来時には、25日にかけて自衛隊北富士演習場と東富士演習場での訓練が夜9時過ぎまで行われた。

7月11日及び8月1日、町田市を含む厚木基地関係11市は、神奈川県とともに、小野寺五典防衛大臣に対して、多くの住民がオスプレイに対する不安を払拭されていないことや基地負担の実情を十分認識し、これ以上の負担にならないような対応を求める要請書を提出した。これに対して国からは、米軍の運用に関する情報の速やかな提供や負担軽減に努力するとの回答があった。

これまでオスプレイは、開発段階、実戦配備を合わせ複数回の墜落事故によって30名以上の米軍兵の死者が出ている。原因の多くは、“オートローテーション”という安全装置がないことやモロッコやフロリダの事故原因とされている“転換モード”による飛行が指摘されている。

MV 2 2に関する日米合同委員会(2012年9月19日)の合意事項には、人口密集地での飛行や低空・夜間飛行、転換モードによる飛行、騒音発生はできるだけ避けることとされているにもかかわらず、沖縄県内での飛行状況や厚木基地飛来の際の飛行状況を見ると、オスプレイの飛行について住民の不安は解決していない。

よって、町田市議会は、基地周辺住民と自治体に対して新たな負担をもたらすようなMV 2 2 オスプレイの危険な飛行中止を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。